

東北大学 知のフォーラム 2019 テーマプログラム『がん - その生物学から受容まで』
第3回 国際シンポジウム Clinical Research and Supportive Therapy
- スケジュール -

1日目 2020年1月18日(土)

テーマ:

緩和ケアにおける患者アウトカムの測定と質の評価：オーストラリア、韓国、台湾の実践から学ぶ

各国の緩和ケアの発展と緩和ケアの質の評価：互いの理解を深め、他国の実践から学ぶ。主たる国レベルのストラクチャや調査結果などを出してもらい、各国がどのように評価をしているかを話してもらう。

Time table

Opening remarks	
13:00-13:10	開会の挨拶（宮下光令）
Session 1: オーストラリア・台湾・韓国・日本における緩和ケアの現状と質の評価	
13:10-13:50	オーストラリアの緩和ケアモデルの発展と可能性 (Mrs. Sabina Clapham)
13:50-14:30	台湾における緩和ケアの質向上プロジェクトの開発と実装 (Dr. Jason Lee)
14:30-15:10	韓国における緩和ケアのあゆみと現状および質の評価 (Dr. Yoon-Jung Chang)
Coffee break (20min)	
15:30-16:10	日本における緩和ケアのあゆみと現状、および全国質評価プログラム (Prof. Mitsunori Miyashita)
全体討議	
16:10-17:10	議題：調整中 (案) ・国レベルで緩和ケアの質をどのように評価していくのがよいか？ ・遺族調査は？(利点, 限界, 課題など) ・各国の現状
17:10-17:20	まとめ 閉会のあいさつ

17:30-19:00 懇親会 - 軽食

2日目 2020年1月19日(日)

テーマ:

Patient-oriented outcome への挑戦：オーストラリアの実践からの学びと東アジアでの挑戦

オーストラリアの PCOC について学ぶ。東アジアで PRO を緩和ケアで利用することが可能か、文化的側面も含めてディスカッションする。

Time table

基調講演	
9:00-10:00	オーストラリア Palliative Care Outcomes Collaboration:患者・家族アウトカム向上 に対する国家レベルの取り組み (Dr. Barbara Daveson)
問題提起	
10:00-10:20	問題提起 日本における PRO の現状とバリア (Dr. Maho Aoyama)
Coffee break (20min)	
Session 2: 台湾と韓国における PROs (IPOS)取り組み	
10:40-11:20	台湾における PROs (IPOS) の使用 (Dr. Jason Lee) 発表 30 分 + 質疑応答 10 分
11:20-12:00	意思疎通の難しい患者の痛みを評価することは可能か? (Dr. So-Hi Kwon) 発表 30 分 + 質疑応答 10 分
Lunch (60 min)	
Session 3: 日本における PROs の臨床使用	
13:00-13:30	日本の緩和ケア病棟における ESAS の臨床使用 (Dr. Takashi Yamaguchi) 発表 30 分 + 質疑応答 10 分
13:30-14:00	日本の緩和ケアチームにおける IPOS の臨床使用 (Dr. Akihiro Sakashita) 発表 30 分 + 質疑応答 10 分
全体討議	
14:00-15:00	議題：調整中 (案) ・アジアの状況についてオーストラリアからのコメント ・東アジアの緩和ケアでも PRO は可能か？治療期では OK だろうが緩和ケアでは？ ・患者アウトカムは ESAS か IPOS か (NRS か VRS か) ・アウトカム測定を臨床につなげるには？ ・今後の協働研究の可能性
Closing remarks	
15:00-15:10	閉会の挨拶